

第 31 回日本生命倫理学会年次大会 プログラム

第 1 日目 12 月 7 日 (土)

A 会場 (総合講義棟・法学部第 1 講義室)

9:20 ~9:30 開会式

9:30~11:00 公募シンポジウム I

走り始めたがんゲノム医療

-理解は共有されているか?-

オーガナイザー：旗手 俊彦 (札幌医科大学)

提題趣旨：走り始めたがんゲノム医療～理解は共有されているか

旗手 俊彦 (札幌医科大学)

ゲノム医療とがん遺伝子パネル検査など

堤 正好 (エスアールエル)

新しい遺伝性腫瘍診断の流れと遺伝カウンセリング

櫻井 晃洋 (札幌医科大学)

「国民参加型がんゲノム医療」に患者・市民参画は可能か?

武藤 香織 (東京大学)

11:10~12:50 大会企画シンポジウム I

我々は健康でなければならないのか

オーガナイザー：浅井 篤 (東北大学)

我々は健康でなければならないのか：いくつかの「問い」を通して

中山 健夫 (京都大学)

健康でなくてもいいんですよ

名郷 直樹 (武蔵国分寺公園クリニック)

健康じゃないけど生きている

土屋 貴志 (大阪市立大学)

「健康幻想」から解放された “いのち”

郷内 淳子 (患者会 カトレアの森)

13:50~15:50 国際交流企画シンポジウム

臨床試験参加者/患者の自律、意思決定、同意

- **Autonomy, Decision-making and Consent of Clinical Research Participants/Patients** -

オーガナイザー：JAB International Collaboration Committee

Keiichiro Yamamoto (University of Tokyo)

Hitoshi Arima (Yokohama City University)

Exploring the ethics of participant payment in research

Brandon Brown (University of California)

Deliberation time in “informal” decision-making on participating in clinical trials

Haruka Nakada (National Cancer Center)

Future-proofing consent in the context of novel reproductive biotechnologies

Evie Kendal (Deakin University)

A study of children born from reproductive technology who are the product of clinical trials and subject of observational studies

Waki Toya (National Cancer Center)

16:10～17:40 学会企画シンポジウム

エンドオブライフ・ケアと人生の最終段階ガイドライン

オーガナイザー：松原 洋子 (立命館大学)

川口 有美子 (ALS/MND サポートセンターさくら会)

エンドオブライフ期の医療・ケアの臨床倫理

清水 哲郎 (岩手保健医療大学)

人生会議の現状と人生最終段階の未来

-科学の限界と確信の謎-

川島 孝一郎 (仙台往診クリニック)

指定発言：

樋口 直美 (レビー小体症当事者)

橋本 みさお (ALS 当事者)

B 会場 (総合講義棟・法学部第2講義室)

9:30～11:00 公募シンポジウムⅡ

安楽死尊厳死の倫理

オーガナイザー：立岩 真也 (立命館大学)

安楽死／ジャーナリズム

宮下 洋一 (フリージャーナリスト)

安楽死／哲学

有馬 斉 (横浜市立大学)

コメント

堀田 義太郎 (東京理科大学)

11:10～12:40 公募シンポジウムⅢ

小児医療現場より問う

-代理意思決定を再考し、その可能性を探る-

オーガナイザー：笹月 桃子 (西南女学院大学／九州大学病院)

小児医療と成人医療のパラダイムの違い

余谷 暢之 (国立成育医療研究センター)

小児集中治療現場より

賀来 典之 (九州大学病院)

新生児医療現場より

上田 一仁 (名古屋大学医学部附属病院)

代理意思決定の可能性を探る

笹月 桃子 (西南女学院大学/九州大学病院)

13:50~15:20 公募シンポジウムIV

倫理コンサルテーションの再検討

-臨床倫理学と臨床倫理の実践-

オーガナイザー：瀧本 禎之 (東京大学)

長尾 式子 (北里大学)

患者相談・臨床倫理センター (C-PRACE) における倫理コンサルテーションの実践

瀧本 禎之 (東京大学医学部附属病院)

倫理学者として大学病院で倫理コンサルテーションをすることの理想と現実

金城 隆展 (琉球大学医学部附属病院)

地域における倫理コンサルテーションの課題

竹下 啓 (東海大学)

病院の外部者が実践する倫理コンサルテーション

-理想と現実-

長尾 式子 (北里大学)

16:10~17:40 公募シンポジウムV

ゲノム編集技術が社会に及ぼす影響と食・農分野における課題

オーガナイザー：四ノ宮 成祥 (防衛医科大学校)

ゲノム編集技術が有する科学技術上のデュアルユース性について

四ノ宮 成祥 (防衛医科大学校)

ゲノム編集技術の水産業への応用について

木下 政人 (京都大学)

ゲノム編集技術が食・農分野に及ぼすガバナンス上の課題

松尾 真紀子 (東京大学)

ゲノム編集技術の社会応用をどう考えるか

三成 寿作 (京都大学 iPS 細胞研究所)

C 会場 (総合講義棟・第1小講義室)

9:30~11:00 公募ワークショップ I

Medical Professionalism in the 21st Century

-Providing Science-based Healthcare and Empathetic Support in the Digital Era. -

オーガナイザー：Shingo Segawa (University of Münster)

報告者：Jan-Ole Reichardt (University of Münster)

Daniel Friedrich (University of Münster)

11:10~12:40 公募ワークショップ III

臨床倫理検討シートの進化と現在

-公開事例検討-

オーガナイザー：清水 哲郎（岩手保健医療大学）

報告者：会田 薫子（東京大学）

岩城 隆二（大阪赤十字病院）

日笠 晴香（岡山大学）

田代 志門（東北大学）

三浦 靖彦（東京慈恵会医科大学附属柏病院）

13:50～14:55 一般演題（口演）Ⅲ-1 医療における対話・連携

座長 板井 孝太郎（宮崎大学）

13:50～14:10 医療における対話の意味

-オープンダイアログを通して-

足立 智孝（亀田医療大学）

14:10～14:30 生の支援としての対話の意味

高橋 在也（千葉大学）

14:30～14:50 在宅医療を受ける医療的ケア児者の統合的地域包括ケアシステム構築にかかわる切れ目ない支援のための検討

-先進的な教育委員会の取り組みに基づいた保小連携制度にかかわる検討を中心に-

山本 智子（国立音楽大学）

14:50～14:55 時間調整

14:55～15:40 一般演題（口演）Ⅲ-2 生命倫理教育

14:55～15:15 ストレンジファインダー[®]を用いた介護倫理研修プログラムの開発と評価

角田 ますみ（杏林大学）

15:15～15:35 生命・医療倫理（Bioethics & Medical Ethics）教育

-15年の教材開発を振り返って-

丸山 マサ美（九州大学）

15:35～15:40 座長総括・時間調整

16:10～17:40 公募ワークショップV

当事者間の対話による臨床倫理

-MCD(Moral Case Deliberation)の展開-

オーガナイザー：堀井 泰明（天使大学）

報告者：門岡 康弘（熊本大学）

小西 恵美子（鹿児島大学）

田代 志門（東北大学）

徳永 純（狭山神経内科病院）

服部 健司（群馬大学）

D会場（総合講義棟・第2小講義室）

9:30～11:00 公募ワークショップII

生殖における概念の再定義

-〈専門家〉による人体・技術への意味づけから-

オーガナイザー：小門 穂（大阪大学）

柳原 良江（東京電機大学）

報告者：小門 穂（大阪大学）

柳原 良江（東京電機大学）

鈴木 良子（フリー編集者／フィンレージの会）

11:10～12:40 公募ワークショップIV

多様な家族形成を受け入れる社会を実現させる上での倫理的課題の検討

オーガナイザー：村岡 潔（佛教大学）

報告者：入澤 仁美（兵庫医科大学）

佐久間 悠太（東北大学）

水野 礼（名古屋大学）

稲垣 恵一（日本赤十字豊田看護大学）

13:50～14:55 一般演題（口演）IV-1 医療政策に関する倫理

座長 浅井 篤（東北大学）

13:50～14:10 放射線被ばくの生命倫理的考察

亀井 修（大阪物療大学／京都府立医科大学）

瀬戸山 晃一（京都府立医科大学）

14:10～14:30 遷延性意識障害患者に対する資源配分抑制論への批判

徳永 純（狭山神経内科病院）

14:30～14:50 ドイツの医療情報法

村山 淳子（西南学院大学）

14:50～14:55 時間調整

14:55～16:00 一般演題（口演）IV-2 医療化をめぐる諸問題

14:55～15:15 他者による「治療化」の圧力について考える

藤井 可（佐賀大学／熊本市役所）

15:15～15:35 薬物によるニューロエンハンスメント

-精神科医の立場から-

三笠 雅也（京都大学）

15:35～15:55 生活習慣病政策の論理と倫理

-ハイリスク戦略からポピュレーション戦略へ-

村岡 潔（佛教大学）

15:55～16:00 座長総括・時間調整

16:10～17:40 公募ワークショップVI

「アイヌ研究」の課題と未来

-先住民族を対象とする研究の倫理を考える-

オーガナイザー：武藤 香織（東京大学）

報告者：加藤 博文（北海道大学）
井上 悠輔（東京大学）

E 会場（総合講義棟・第3小講義室）

9:30～11:00 一般演題（口演）Ⅰ 研究倫理

座長 高野 忠夫（東北大学病院）

9:30～9:50 医療・介護施設を対象としたリハビリテーション領域における研究倫理に関する調査

田中 誠也（国立長寿医療研究センター）

脇之菌 真理（国立長寿医療研究センター）

9:50～10:10 倫理審査委員会の審査の質の評価について
-学内アンケート調査に基づく考察-

脇之菌 真理（藤田医科大学）

佐藤 芳（藤田医科大学）

10:10～10:15 時間調整

10:15～10:35 オンライン研究倫理コンサルテーションの試行と評価

會澤 久仁子（国立循環器病研究センター）

清水 右郷（国立循環器病研究センター）

土井 香（国立循環器病研究センター）

川崎 唯史（熊本大学）

遠矢 和希（国立がん研究センター東病院）

松井 健志（国立がん研究センター）

10:35～10:55 「倫理審査委員会」における教育・研修の実態からみる今後の展望
-「一般の立場」の委員に対する全国調査の結果から-

吉田 幸恵（群馬パース大学）

神里 彩子（東京大学）

10:55～11:00 座長総括・時間調整

11:10～12:40 一般演題（口演）Ⅱ 終末期に関する倫理

座長 門岡 康弘（熊本大学）

11:10～11:30 高齢被收容者にとっての「善い死」とは何か

神馬 幸一（獨協大学）

11:30～11:50 がん終末期における持続的深い鎮静と患者の「見捨てられ感」

吉田 勝也（済生会横浜市東部病院）

11:50～11:55 時間調整

11:55～12:15 フランスにおける治療中止をめぐる課題
-行政裁判所の判例の分析をもとに-

小林 真紀（愛知大学）

12:15～12:35 終末期の意思決定支援に向けての日本人の意識

沖永 隆子（帝京大学）

カール・ベッカー（京都大学）

12:35～12:40 座長総括・時間調整

13:50～16:00 一般演題（口演）V 思想・宗教の参照

座長 安藤 泰至（鳥取大学）

13:50～14:10 安楽死の殺人性と解放性

-遠藤周作の安楽死観-

寿台 順誠（早稲田大学）

14:10～14:30 医療現場で安全優先のための抑制は行うべきではない。

-シジウィックの倫理学の諸方法による考察をふまえて-

神徳 和子（山口大学）

14:30～14:50 日本の自殺対策を考える

-仏教の視点から-

植田 美津恵（東京通信大学／愛知医科大学）

14:50～14:55 時間調整

14:55～15:15 縁起的知見と自己決定／関係性についての一考察

-和辻哲郎における近代的「縁起」解釈の再考を中心に-

山本 栄美子（東京大学）

15:15～15:35 〈生命力の発展プロセスの3段階論〉と人間の幸福

-アダム・スミス, J.S. ミル, J.M. ケインズの経済理論と国家論との関連で-

前原 直子（中央大学）

15:35～15:55 現代日本におけるジェンダー平等とケア労働

- J.S. ミルの『経済学原理』と『女性の隷従』におけるフェミニズムとの関連で-

前原 鮎美（法政大学）

15:55～16:00 座長総括・時間調整

16:10～17:40 一般演題（口演）VI 生殖に関する倫理

座長 金澤 麻衣子（東北大学病院）

16:10～16:30 「格差利用」と「医療の性質」から考える生殖医療ツーリズム規制の方向性

今井 竜也（金沢大学）

16:30～16:50 配偶子提供の再考

-匿名提供の困難化を足がかりに-

石井 哲也（北海道大学）

16:50～16:55 時間調整

16:55～17:15 「胎児虐待」言説が抱える危うさの検討

-特に、妊娠女性に対する抑圧の視点から-

中井 祐一郎（川崎医科大学）

比名 朋子（神戸市看護大学）

17:15～17:35 死後懐胎の今後

大橋 範子（大阪大学）

17:35～17:40 座長総括・時間調整

ポスター会場（総合講義棟・2階ホール）

12:40～13:50 一般演題ポスター発表

座長 原 塑（東北大学）

12:40～12:50 P-1 養護教諭養成課程の学生の倫理観

-看護学 I での当事者性をもつ特別講師の講義からの学び-

笹谷 絵里（花園大学）

坂井 めぐみ（立命館大学）

12:50～13:00 P-2 司法解剖における法医学教室の遺族対応についての考察

-生命倫理学の観点から-

苅部 智恵子（東洋英和女学院大学）

13:00～13:10 P-3 犯罪被害者遺族への対応差について

-司法解剖をめぐって-

山田 恵（東洋英和女学院大学）

13:10～13:15 時間調整

13:15～13:25 P-4 医学系学会における金銭的・非金銭的な利益相反管理方針の公開状況

森 朋有（沖縄科学技術大学院大学）

金本 絵里（沖縄科学技術大学院大学）

13:25～13:35 P-5 倫理委員会事務局が直面する課題

-倫理審査の付議に関する判断-

福田 美也子（国立精神・神経医療研究センター）

有江 文栄（国立精神・神経医療研究センター）

13:35～13:45 P-6 日本における伴侶動物死後の教育用解剖数が極端に少ない理由

-日米学生アンケートから-

鈴木 まり花（酪農学園大学）

13:45～13:50 座長総括・時間調整

第2日目 12月8日(日)

A会場(総合講義棟・法学部第1講義室)

9:00~10:30 公募シンポジウムVI

透析療法の意思決定支援のあり方

-エンドオブライフ・ケアの論理と倫理-

オーガナイザー：会田 薫子(東京大学)

高齢患者の透析療法におけるフレイル評価の重要性

-臨床倫理的に適切な意思決定支援のために-

会田 薫子(東京大学)

維持血液透析の終了を表明したがん終末期患者への意思決定支援

進藤 喜予(市立東大阪医療センター)

〈情報共有-合意モデル〉=〈ACPモデル〉による意思決定支援の実現に向けて

清水 哲郎(岩手保健医療大学)

10:40~12:20 大会企画シンポジウムII

自己決定を問い直す

オーガナイザー：直江 清隆(東北大学)

自律に代わる理論枠組みの構築を目指して

-出生前スクリーニング正当化論における自律概念への批判的考察を通じて-

圓増 文(東北大学)

遺伝子診療における自己決定プロセス

吉田 雅幸(東京医科歯科大学)

被験者あるいは研究協力者の自己決定

高野 忠夫(東北大学病院)

医療行動経済学からの意思決定とその支援の方法

平井 啓(大阪大学)

14:20~17:10 市民公開企画(A会場のみ)

14:20~15:30 市民公開企画I

生命倫理カーニバル

オーガナイザー：尾藤 誠司(東京医療センター)

田代 志門(東北大学)

15:40~17:10 市民公開企画II

内閣府共催企画：ヒト胚のゲノム編集をめぐる市民との対話

共同座長：甲斐 克則(早稲田大学)

浅井 篤(東北大学)

ヒト受精胚にゲノム編集を用いる研究

石原 理(埼玉医科大学)

滑り坂か、福音か

青野 由利 (毎日新聞)

生命医療倫理の研究者・実践者としてゲノム編集に思うこと

門岡 康弘 (熊本大学)

B 会場 (総合講義棟・法学部第2講義室)

9:00～10:30 公募シンポジウムVII

生命と尊厳 10

-精神科医療、この10年で変わったこと、変わらなかったこと-

オーガナイザー：大西 香代子 (甲南女子大学)

精神科訪問看護の充実とリハビリ志向のケアへの転換

松岡 純子 (甲南女子大学)

尊厳を奪う身体拘束の実態

-15年で2倍となった身体拘束。ケリー・サベジさんの死から考える-

長谷川 利夫 (杏林大学)

指定発言：

服部 健司 (群馬大学)

10:40～12:10 公募シンポジウムIX

予防医学についての倫理的法的社会的課題

-「子宮頸がんワクチン」を事例として-

オーガナイザー：村岡 潔 (佛教大学)

子宮頸がんの罹患・死亡は「ワクチン接種」によって予防すべきか。

打出 喜義 (金城大学)

HPVワクチン論争言説における科学リテラシーとレトリックの問題

-生政治と専門家の職業倫理-

佐々木 香織 (小樽商科大学)

HPVワクチン接種被害者の苦しみを考える

井上 芳保 (北海道教育大学)

予防医学の有効性判定と無危害原理について

-HPVワクチンを俎上に-

村岡 潔 (佛教大学)

13:25～14:15 総会

17:20～17:40 閉会式

C 会場 (総合講義棟・第1小講義室)

9:00～10:30 公募シンポジウムVIII

ALS 等神経筋疾患患者の進行によって生じる課題

-生きる力を培う支援の在り方を考える-

オーガナイザー：川口 有美子（ALS/MND サポートセンターさくら会）

迷える ALS 患者の倫理コンサルテーション

-どちらを差し出す？社会サービスかそれともモルヒネか？-

川口 有美子（ALS/MND サポートセンターさくら会）

生きる力 コミュニケーション

-ALS の意思伝達支援を例に-

本間 武蔵（都立神経病院）

筋萎縮性側索硬化症（ALS）等神経筋疾患患者の ALP（Advance Life Planning）

伊藤 道哉（東北医科薬科大学）

10:40～12:10 公募ワークショップVIII

公立福生病院における透析治療の不開始・中止を考える

オーガナイザー：堂園 俊彦（静岡大学）

報告者：三浦 靖彦（東京慈恵会医科大学附属柏病院）

神谷 恵子（神谷法律事務所）

長尾 式子（北里大学）

竹下 啓（東海大学）

14:20～15:30 一般演題（口演）VII 遺伝子・ゲノムに関する倫理

座長 大西 基喜（青森県立保健大学）

14:20～14:40 患者遺伝情報に対する家族アプローチによる守秘義務の再考

高島 響子（国立国際医療研究センター）

14:40～15:00 生命保険と遺伝情報

-オーストラリアにおける規制導入の経緯を中心に-

横野 恵（早稲田大学）

15:00～15:20 ゲノム編集をめぐるドイツの近時の議論

-ドイツ倫理評議会声明を素材に-

三重野 雄太郎（佛教大学）

15:20～15:30 座長総括・時間調整

15:40～17:10 公募ワークショップX

透析などの治療の不開始を希望する患者への多職種役割と連携を問い直す

-施設を超えた多職種と共に考える-

オーガナイザー：大井 恵子（麻生 飯塚病院）

報告者：岡 佳子（麻生 飯塚病院）

松尾 純子（麻生 飯塚病院）

杉原 正子（東京医療センター）

望月 葉子（東京都立北療育医療センター）

D会場（総合講義棟・第2小講義室）

9:00～10:30 公募ワークショップVII

ゲノム編集技術の臨床応用について語る

-ゲノム編集研究の最前線と倫理的課題-

オーガナイザー：山本 圭一郎（東京大学）

伊吹 友秀（東京理科大学）

報告者：伊吹 友秀（東京理科大学）

山本 圭一郎（東京大学）

阿久津 英憲（国立成育医療研究センター）

10:40～12:10 公募ワークショップIX

病院と地域との交流を促す倫理カンファレンスへの誘い

オーガナイザー：稲葉 一人（中京大学）

報告者：松村 優子（京都市立病院）

恋水 諄源（市立福知山市民病院）

武 ユカリ（関西医科大学）

峯村 優一（京都府立医科大学）

事例相談者：

細越 万里子（がくさい病院）

14:20～15:30 一般演題（口演）VIII 人工知能をめぐる諸問題

座長 服部 健司（群馬大学）

14:20～14:40 超高齢社会の地域包括ケアにおけるAI（人工知能）をめぐる法的社会的倫理的課題

-人間中心の多機関・多職種連携のガバナンス-

福田 八寿絵（鈴鹿医療科学大学）

福田 耕治（早稲田大学）

14:40～15:00 医療AIのELSI

-形成外科領域における課題-

恋水 諄源（市立福知山市民病院/京都府立医科大学）

15:00～15:20 人工知能における痛み、苦しみ、そして共感へ

-道徳判断に関する功利主義的アプローチの帰結-

戸田 聡一郎（東京大学）

15:20～15:30 座長総括・時間調整

15:40～17:10 一般演題（口演）X 臨床倫理

座長 長尾 式子（北里大学）

15:40～16:00 患者の尊厳に着目した倫理コンサルテーションモデルの検討

堂園 俊彦（静岡大学）

16:00～16:20 臨床倫理コンサルテーション事例のまとめと今後の課題

金田 浩由紀 (関西医科大学総合医療センター)
佐藤 幸代 (関西医科大学総合医療センター)
吉井 弘子 (関西医科大学総合医療センター)
大上 千賀 (関西医科大学総合医療センター)
渡部 樹子 (関西医科大学総合医療センター)
武 ユカリ (関西医科大学)

16:20～16:25 時間調整

16:25～16:45 インフォームド・コンセントにおける家族の位置付けと自己決定権

秋葉 峻介 (山梨大学／立命館大学)

16:45～17:05 オランダ臨床倫理学の動向とその駆動力

服部 健司 (群馬大学)

17:05～17:10 座長総括・時間調整

E 会場 (総合講義棟・第3小講義室)

9:00～10:30 若手優秀口演賞候補者セッション

9:00～9:05 座長挨拶 高島 響子 (国立国際医療研究センター)
武藤 香織 (東京大学)

9:05～9:25 医学研究倫理における脆弱性の概念
-争点の整理-

川崎 唯史 (熊本大学)

大北 全俊 (東北大学)

佐藤 静 (大阪樟蔭女子大学)

松井 健志 (国立がん研究センター)

9:25～9:45 患者・研究者・政策関係者の協働による医療・医学研究政策に資するエビデンス
の創出

古結 敦士 (大阪大学)

濱川 菜桜 (大阪大学)

磯野 萌子 (大阪大学)

山崎 千里 (大阪大学)

小門 穂 (大阪大学)

加藤 和人 (大阪大学)

9:45～10:05 スペインにおける臓器提供

-提供に際する家族への意思確認現場に関して-

後藤 新人 (慶應義塾大学)

10:05～10:25 高齢者への「延命医療の差し控え」をめぐる家族介護者の語り

眞浦 有希 (甲南女子大学／大阪大学)

10:25～10:30 座長総括・時間調整

10:40～11:25 若手論文奨励賞受賞者講演

座長 佐藤 雄一郎 (東京学芸大学)

10:40～10:45 座長による受賞者紹介

10:45～11:15 心肺蘇生時の家族の立ち会いと情報開示

中澤 慧 (群馬大学)

11:15～11:25 質疑応答

14:20～15:30 一般演題 (口演) IX 基本概念に関する再検討

座長 霜田 求 (京都女子大学)

14:20～14:40 医療現場における自律の尊重の再検討

田淵 綾 (九州大学)

14:40～15:00 新たな「自律」概念と「自律尊重原則」

-生命倫理における「自律」の新たな意義の可能性-

石田 安実 (神奈川大学)

15:00～15:20 認知症患者は自律的という理解に問題はないのか

瀬川 真吾 (ミュンスター大学)

15:20～15:30 座長総括・時間調整

ポスター会場 (総合講義棟・2階ホール)

12:10～13:20 若手優秀ポスター賞候補者セッション

12:10～12:15 座長挨拶 田中 智彦 (東京医科歯科大学)

12:15～12:25 P-7 ICTを利用した患者参画型の医学研究における協働の場の構築

磯野 萌子 (大阪大学)

濱川 菜桜 (大阪大学)

古結 敦士 (大阪大学)

山崎 千里 (大阪大学)

加藤 和人 (大阪大学)

12:25～12:35 P-8 「リベラル優生主義」批判

-「リベラル」ではありえない優生主義-

邢 曉赫 (千葉大学)

12:35～12:45 P-9 安楽死再考への一試論

小田中 奎太 (東北大学)

12:45～12:55 P-10 と畜場の繋留所における家畜の飲用水設備の設置状況

長沼 拳 (酪農学園大学)

12:55～13:05 P-11 臨床研究法のスキームと施行一年後の現状から見る運用上の課題

樋野村 亜希子 (滋賀医科大学/放送大学)

高橋 博子 (滋賀医科大学)

倉田 真由美 (滋賀医科大学医学部附属病院)

13:05～13:15 P-12 家畜ウシにおけるゲノム編集に関する倫理的諸問題の検討

平田 圭吾 (酪農学園大学)

13:15～13:20 座長総括